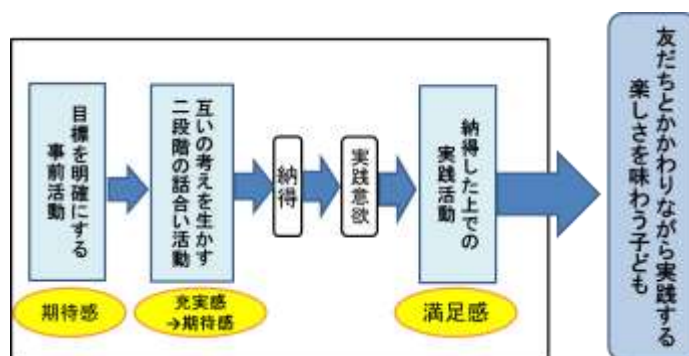


友だちとかかわりながら実践する楽しさを味わう子どもを育てる第二学年学級活動(1) ～互いの考えを生かす二段階の話合い活動を通して～

要約

近年、子どもを取り巻く社会の変化に伴い、人間関係の希薄化が顕著になっている。そのため、好ましい人間関係を築けないなど、社会性の育成が不十分である。これを受けて、学習指導要領解説特別活動編においては、望ましい集団活動を通して、集団の一員としてよりよい生活づくりに参画する態度を育成することが一層重視されている。そこで、友だちとかかわりながら、目標を決めたり解決方法を考えたり決まったことを行ったりする楽しさを味わう子どもの姿を目指して、研究主題を設定した。これまでの指導では、学級活動(1)の一連の活動である事前活動・話合い活動・実践活動において、期待感・充実感・満足感を味わわせることができていなかった。そこで、下図のように、事前活動で目標を明確にし、話合い活動で互いの考えを生かせるように二段階で話し合い、実践活動を納得した上で行っていくことで、子どもに期待感・充実感・満足感を味わわせたいと考えた。

この構想のもと、多くの題材で実践を積み上げてきた。ここでは、「みんなでおいもまつりをしよう」「2学期がんばったね集会をしよう」の2本の実践を述べる。その結果、次のような成果と課題を得ることができた。



成果

- 事前活動で目標を明確にしたことで、目標に沿った自分の考えをつくり、話合い活動への期待感をもつことができた。
- 話合い活動を二段階で構成したことにより、全員が自分の考えを進んで発表したり、互いの考えを集団決定に生かしたりでき、話合い活動の充実感を味わい、実践活動への期待感をもつことができた。
- 互いの考えが生かされた納得した上での実践活動だったため、意欲的に取り組むことができ、実践活動の満足感を味わうことができた。
- 事前活動や実践活動で、自分たちの姿を写真やビデオで見せる支援を行ったことで、事前活動では、各題材の目標を明確にでき、話合い活動への意欲につながった。また、実践活動では、実践する楽しさを客観的に感じることで、次の実践への意欲につながることができた。
- 互いの考えを生かしながら二段階で話し合う活動を積み上げてきたため、友だちの意見を取り入れた集団決定の方法が身に付きつつある。

課題

- 全員が十分に自分の考えを出しきるための時間確保と話し合う内容の焦点化
- 事前活動や実践活動における計画や準備などの時間確保

キーワード

実践する楽しさ（期待感・充実感・満足感） 互いの考えを生かす二段階の話合い活動

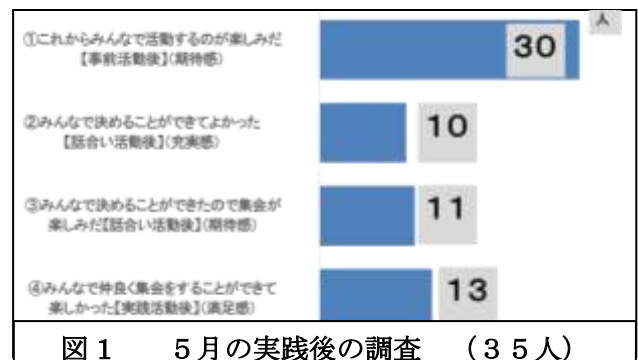
1 主題設定の理由

(1) 現代社会の要請と特別活動のねらいから

近年、少子化や情報化、価値観の多様化が進み、子どもを取り巻く社会が急速に変化していることを背景に、人間関係の希薄化が顕著になっている。そのため、好ましい人間関係を築けないなど、社会性の育成が不十分である。これを受けて、学習指導要領解説特別活動編においては、望ましい集団活動を通して、集団の一員としてよりよい生活づくりに参画する態度を育成することが一層重視されている。中でも低学年の学級活動においては、「みんなと一緒に仲良く助け合い取り組むこと」の重要性がうたわれている。このことから、友だちとかかわりながら実践する楽しさを味わう子どもの育成をねらう本主題は意義がある。

(2) 子どもの実態

図1は、5月の実践後に行ったアンケートの結果である。事前活動を終え、「これからみんなで活動するのが楽しみだ」と応えた子どもは30人(①)と多かったが、「みんなで決めることができてよかった」と応えた子どもは10人(②)、「みんなで決めることができたので集会が楽しみだ」と応えた子どもが11人(③)、「みんなで仲良く集会をすることができた」と応えた子どもが13人(④)だった。



つまり、事前活動から実践活動までの活動を通して、みんなで実践する楽しさを味わっているとはいえない。そこで、事前活動・話し合い活動・実践活動のすべての段階で、友だちとかかわりながら実践していく楽しさを味わう子どもの育成を目指し、本主題を設定した。

(3) これまでの指導の反省から

1学期の学級活動(1)の指導を振り返ると、事前活動で目標を明確にすることができておらず、これから行っていく活動への期待感をもたせることが不十分だった。また、話し合い活動では、話し合いの形ができていなかったため、「いつ」「何を」話せばよいのかが分からない子どもが多かった。実践活動では、一部の子どもの意見によって決められたものだったため、全員が納得して行うことができず、全員が満足感を得ることはできていなかった。中でも、話し合い活動で、みんなで決めたという充実感や実践活動への期待感をもたせる話し合いにすることができていなかった。そこで、副主題を「互いの考えを生かす二段階の話し合い活動」と設定した。

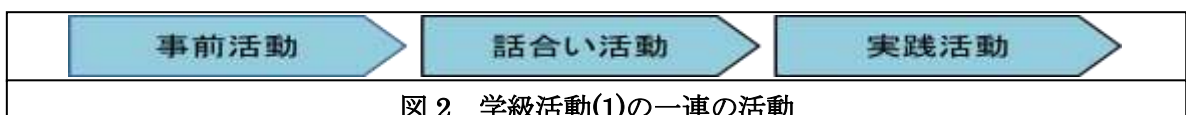
2 主題の意味

(1) 主題「友だちとかかわりながら実践する楽しさを味わう子どもを育てる学級活動」について

① 「友だちとかかわりながら実践する」とは

学級活動(1)の一連の活動を、友だちと一緒にやることであり、友だちと一緒に目標を決めたり、解決方法を考えたり、決まったことを行ったりすることである。

学級活動(1)の一連の活動とは、図2のような3つの活動である。



② 「友だちとかかわりながら実践する楽しさを味わう子ども」とは

学級活動(1)の一連の活動を友だちと一緒にやりながら、期待感・充実感・満足感を味わった子どものことである。

具体的には、図3のように、事前活動で、共同の目標達成を目指して、「これからみんなでするのが楽しみだ」という期待感をもち、話し合い活動では、みんなで決めることができた充実感や実践活動への期待感をもち、実践活動で、みんなでできて楽しかったという満足感を味わう子どもの姿である。

ここで大事なことは、次の2点である。1つ目は「共同の目標を明確にすること」、2つ目は「活動を繰り返し行っていくこと」である。つまり、図4のような構造となる。

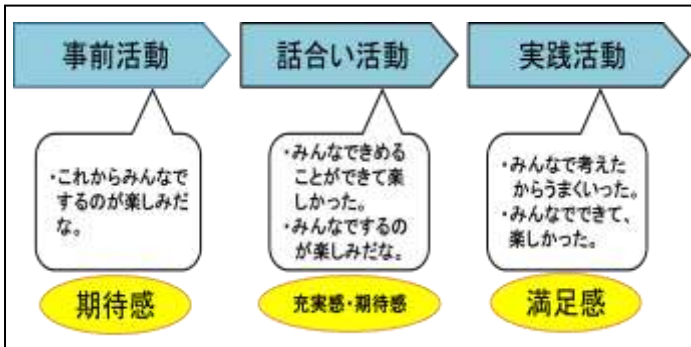


図3 各活動における子どもの姿と発言

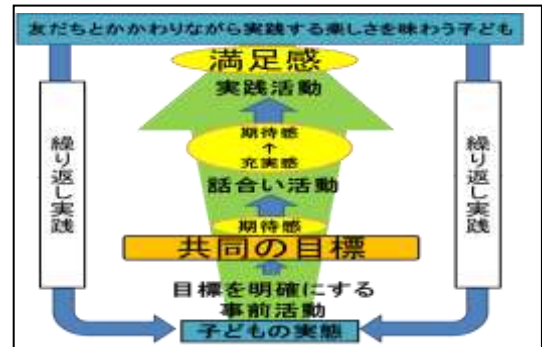


図4 目指す子どもを育成する構造

このように、目指す子ども像を明らかにし、実践を繰り返していくと、次のような資質や能力も同時に育成できる。

- 友だちと仲良く助け合いながら共同の目標達成に向けて自主的に活動する (関心・意欲・態度)
- 共同の目標達成のための方法を考え、仲良く助け合いながら活動する (思考・判断・実践)
- 共同の目標達成のための話し合い方や実践の仕方を理解する (知識・理解)

(2) 副主題「互いの考えを生かす二段階の話し合い活動」について

① 「互いの考えを生かす二段階の話し合い活動」とは

全員の考えを出し合う第一段階と、考えを比べ合って決める第二段階による話し合いのことである。

第二学年では、多様なパターンの話し合いは難しい。そこで、2パターンの話し合い活動を設定した。1つ目は、集会などで何をするのかを決める際、2つからどちらを選ぶかを決めるパターンの【パターンA】、2つ目は、どんなアイデアを取り入れるかを話し合って決定するパターンの【パターンB】である。そして、どちらのパターンの話し合いかを明らかにすることで、子どもたちは「何を」「いつ」話せばいいのか明確になり、互いの考えが生かされる話し合いを行うことができる。それぞれのパターンにおける二段階の話し合い活動は、図5の通りである。

【パターンA】は、第一段階でどちらがいいか自分の考えを出し合い、第二段階でどちらにするかを比べ合って決めることになる。

【パターンB】は、第一段階で取り入れたいアイデアを出し合い、第二段階でそのアイデアを取り入れるかどうか決めることになる。アイデアがいくつかある場合は、これを繰り返す。

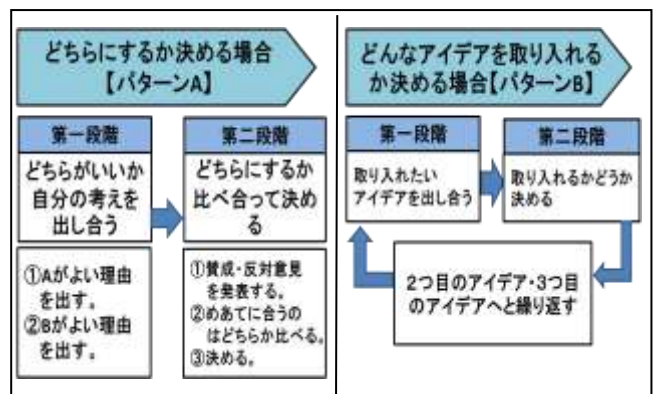


図5 第二学年の各パターンによる二段階の話し合い活動

(3) 主題と副主題の関連

図6のように、副主題である「互いの考えを生かす二段階の話合い活動」で、全員が納得する集団決定を行えば、全員の実践意欲を高めることができる。そして、納得した上での実践活動を展開することで、主題である「友だちとかかわりながら実践を楽しむ子ども」を育てることができる。

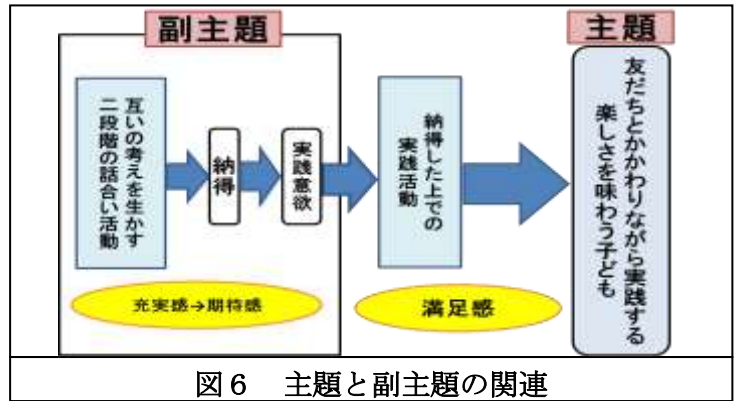


図6 主題と副主題の関連

3 研究の目標

第二学年学級活動(1)において、友だちとかかわりながら実践する楽しさを味わう子どもを育てるための、互いの考えを生かす二段階の話合い活動の在り方について究明する。

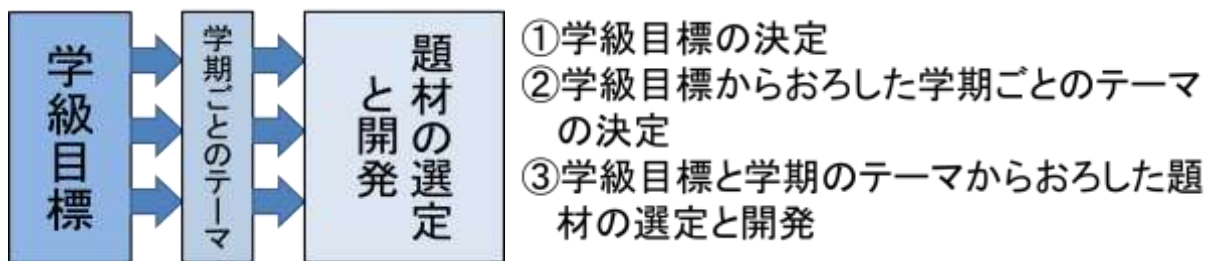
4 研究の仮説

学級活動(1)において、目標を明確にする事前活動、互いの考えを生かす二段階の話合い活動、納得した上での実践活動を行えば、期待感・充実感・満足感を得て、友だちとかかわりながら実践する楽しさを味わう子どもを育てることができるだろう。

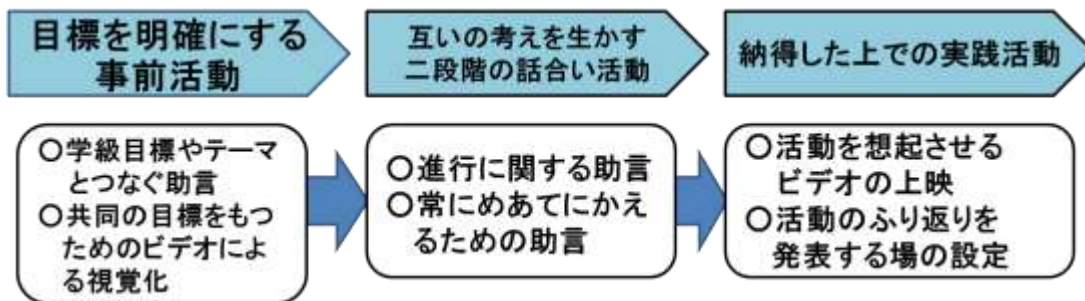
5 研究の具体的構想

本仮説に迫るために、以下のような具体的方策に取り組んでいく。

(1) 学級目標→学期ごとのテーマからの題材の選定と開発



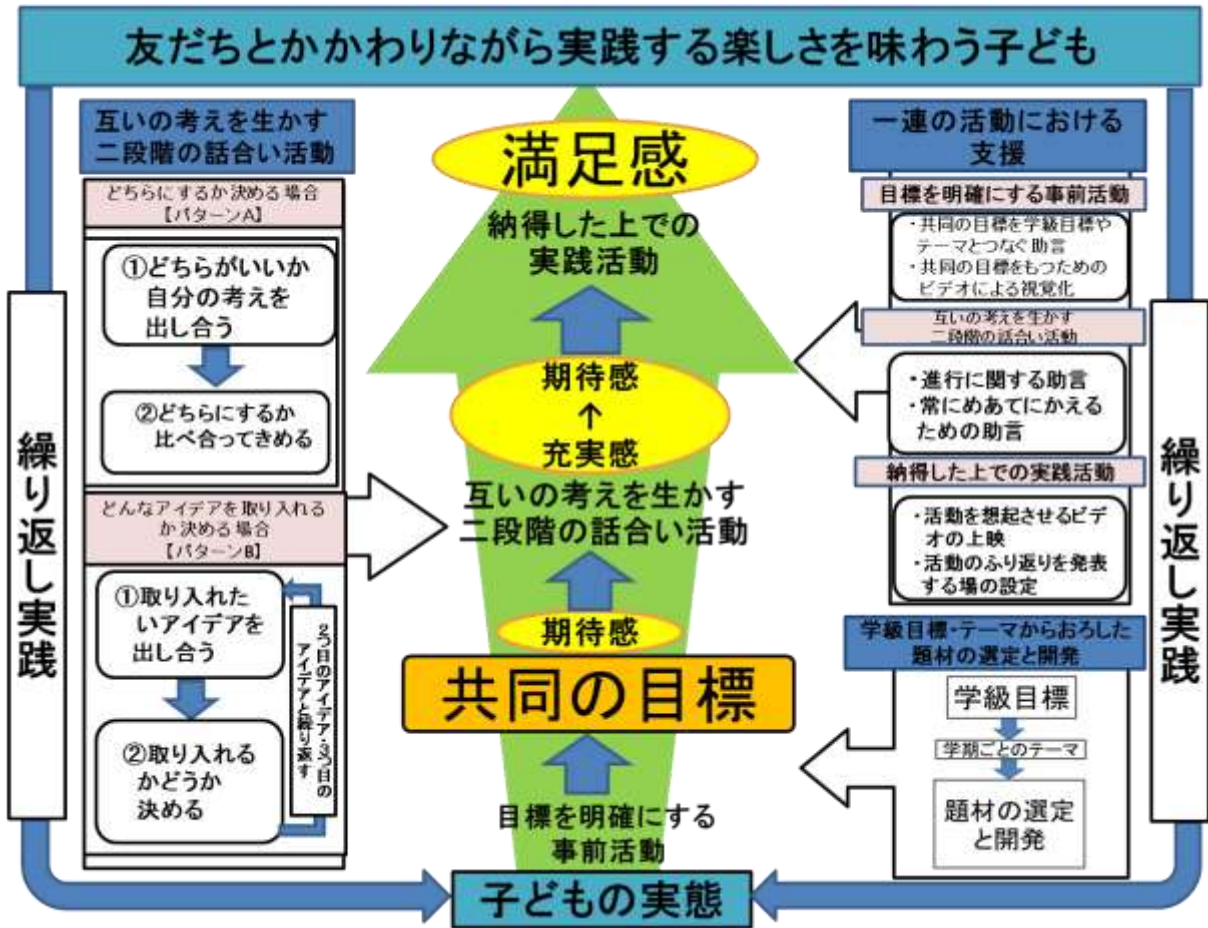
(2) 一連の活動における支援の工夫



6 研究の計画

月	研究内容	月	研究内容
5月	理論研究・実態調査	10月	検証授業1
6月	理論研究	11月	検証授業2
7月	理論研究	12月	検証授業3, 4・データ分析
8月	教材研究	1月	研究のまとめ
9月	教材研究	2月	研究報告

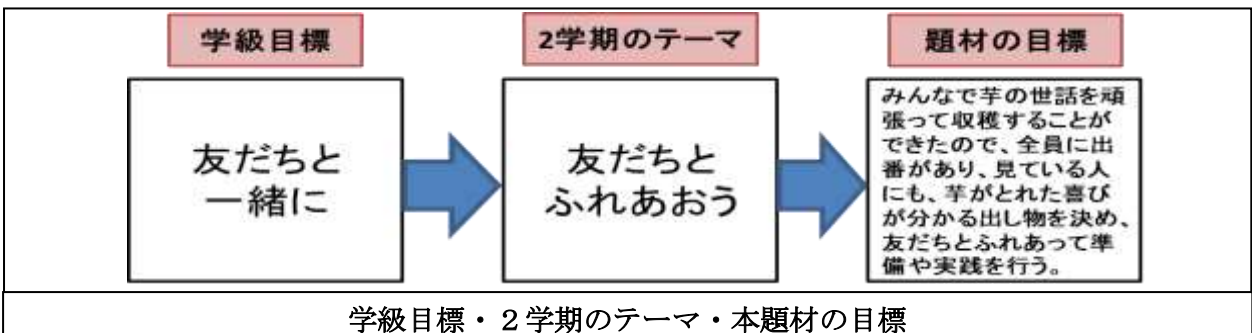
7 研究構想図



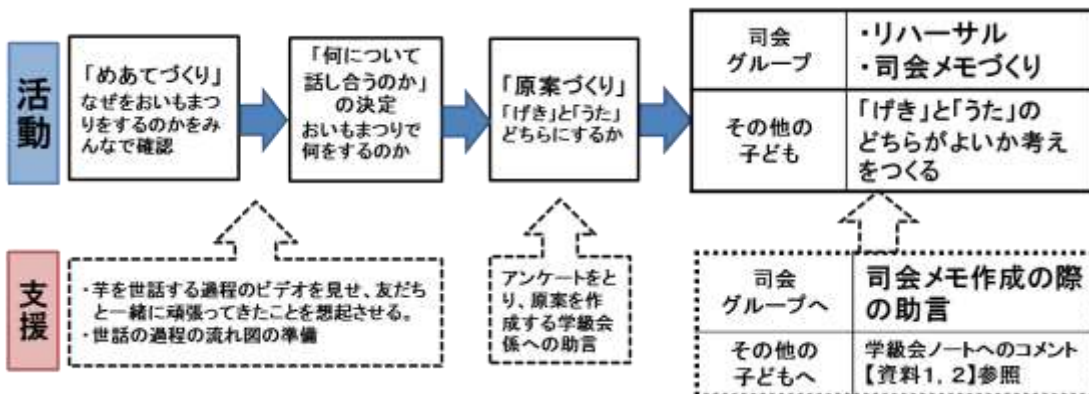
8 研究の実際と考察

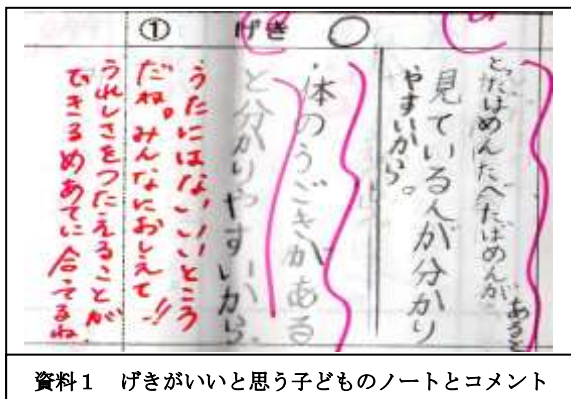
【実践1】 第二学年 題材「みんなでおいもまつりをしよう」(11月実施)

(1) 活動の実際と考察

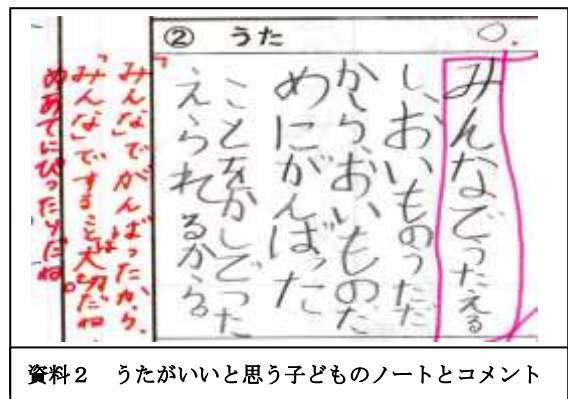


① 事前活動





資料1 げきがいいと思う子どものノートとコメント



資料2 うたがいいと思う子どものノートとコメント

【考察】

- 目標を明確にしたことで、自分の考えをつくり、話し合い活動への期待感をもつことができた。
- 目標を明確にするため、事前活動に時間を費やしてしまった。

② 二段階の話し合い活動

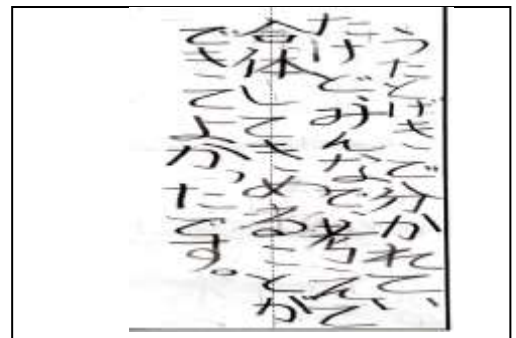
「げき」と「うた」どちらにするかを決める話し合いのため、【パターンA】の話し合いをした。

	話し合い活動の様子と教師の支援	考察
第一段階 の考えを出し合う どちらがいいか自分	① げきがいいと思う子どもが考えを出した場面 C1: げきのいいところは、体でうれしさを表せるところです。 C2: ○○さんに似ていて、言葉と心と体で表せるところです。 :	○個に応じたコメントをしたことで、発言意欲を高め、全員が発表することができた。
	② うたがいいと思う子どもが考えを出した場面 C1: 歌詞の中にうれしさを伝えることができるところです。 C2: リズムよく楽しくできるところです。 :	
第二段階 どちらにするか比べ合っ て決める	① げきとうたの賛成意見と反対意見を出し合った場面 C1: げきの足りないところは2時間で作れないところです。 C2: ○○さんに似ていて、げきは準備が大変です。 C3: 歌だと心と言葉で表せるけど、体では表すことができないから、みんなの頑張りが伝わりにくいです。 C4: 歌は見ているだけでは何をしているか伝わりません。	○反対意見ばかりが多く出された。
	② めあてに合うのはどちらか比べる場面 T: どちらに対しても反対意見が出たので、どちらがめあてに合っているか比べて考えを發表しましょう。 C1: げきだと体でも喜びを表せるのでめあてに合っています。 C2: うただとみんなで一緒に歌えるからめあてに合います。	○それぞれの考えのよさが出され、双方とも、めあてに合っていることを共通理解できた。
	③ 決める場面 C1: げきとうたのしたい方をすればいいと思います。 C2: それだと「みんなで」にはならないと思うので、みんなでした方がいいと思います。 C3: げきとうたを合体させたらいいと思います。 C4: げきの中にうたを入れたらいいと思います。	○35人全員でできる方法を考え、双方の意見を取り入れた集団決定をすることができた。

～げきの中にうたを取り入れることに決定！～

【考察】

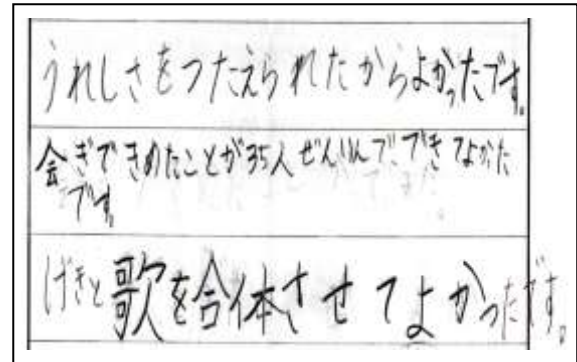
- 二段階の第一段階では、コメントをしていたため、全員が自分の考えを發表することができ、第二段階では、話合いの順序に即した發言をすることができた。
 - 双方の考えが集団決定に生かされたことで、話合いの充実感を味わうことができた。【資料3】
 - 二段階の話合いで全員の意見を出させたため、時間が足りなかった。
- ③ 実践活動



資料3 充実感を味わった子どものノート



資料4 実践活動の様子



資料5 満足感を味わった子どものノート

【考察】

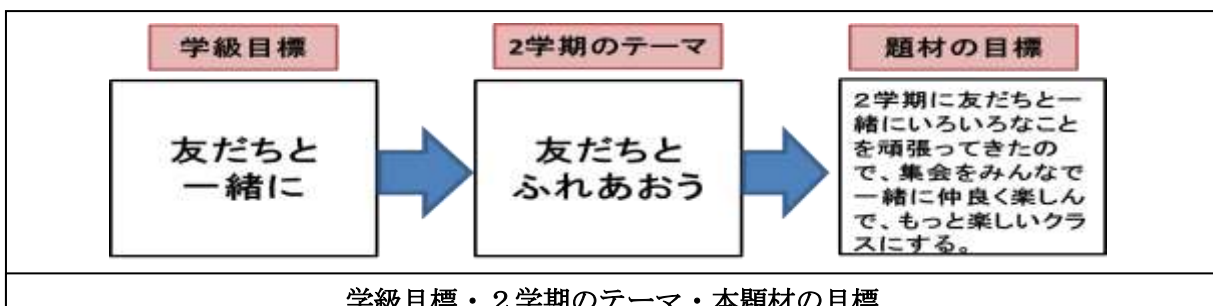
- 互いの考えが生かされた納得した上での実践活動だったため、意欲的に取り組むことができ、実践活動の満足感を味わうことができた。【資料5】
- どちらも行うことになったので、準備や計画の時間確保が難しかった。

(2) 実践1の全体考察

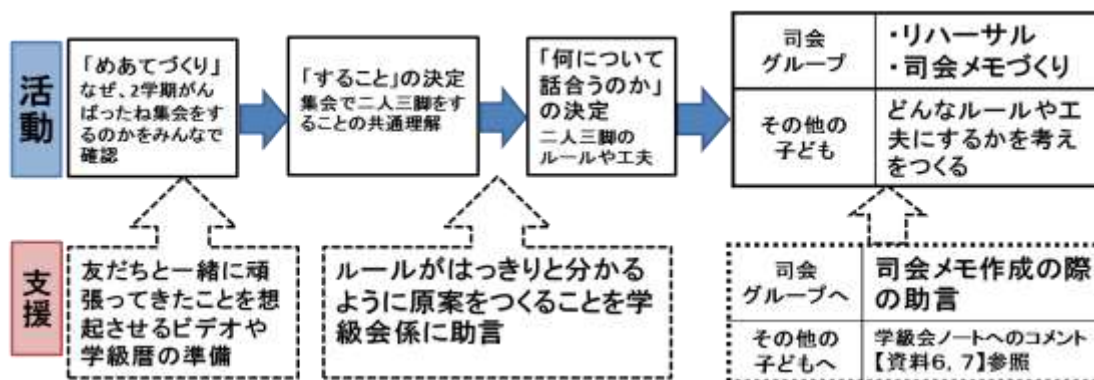
- 事前活動で目標を明確にしたことで、自分の考えをつくり、話合い活動への期待感をもつことができた。
- 話合い活動で、二段階で話し合ったため、全員が自分の考えを發表したり、互いの考えを集団決定に生かしたりでき、話合いの充実感を得ることができ、実践活動への期待感を高めることができた。
- 互いの考えが生かされた納得した上での実践活動だったため、意欲的に取り組むことができ、実践活動の満足感を味わうことができた。
- 事前活動では目標を明確にするための時間、話合い活動では全員の考えを出す時間、実践活動では準備の時間確保が難しかった。

【実践2】 第二学年 題材「2学期がんばったね集会をしよう」(12月実施)

(1) 活動の実際と考察



① 事前活動



【考察】

資料6 ルールについて書いた子どものノートとコメント

子どものノートを転記

たたかいだったら負けがつかから、30分にみんなは何回できるかがいい

資料7 工夫を書いた子どものノートとコメント

子どものノートを転記

しようがいぶつがあつた方がいい。二人三脚だけでは盛り上がらないと思うから。

- 目標を明確にすることができたので、「みんなで」活動を行うことを意識して自分の考えをつくり、話し合い活動への期待感をもつことができていた。
- 事前に「二人三脚」を試していたため、全員が楽しむための工夫を考えることができていた。

② 二段階の話し合い活動

35人全員が仲良く楽しむことができる「二人三脚」にするための工夫を決める話し合いのため、【パターンB】の話し合いをした。

	話し合い活動の様子	考察
「勝ち負けについて」 1つ目のアイデア	<p>第一段階 取り入れたいアイデアを出し合う</p> <p>C1: トーナメントは「勝ち負けなし」がいいと思います。わけは、もっとみんなで楽しむためにするからです。</p>	○個に応じたコメントをしたことで、めあてに沿った発表ができた。
	<p>第二段階 取り入れるかどうか決める</p> <p>C1: ○○さんに賛成です。わけは、負けた人が「もうしたくない」と思うからです。</p> <p>C2: 負けた人がかわいそうだから「勝ち負けなし」に賛成です。</p> <p>C3: 勝ち負けでなく「みんなで何回できたか」にすればいいと思います。</p>	○みんなで仲良く楽しむというめあてに沿った集団決定ができた。

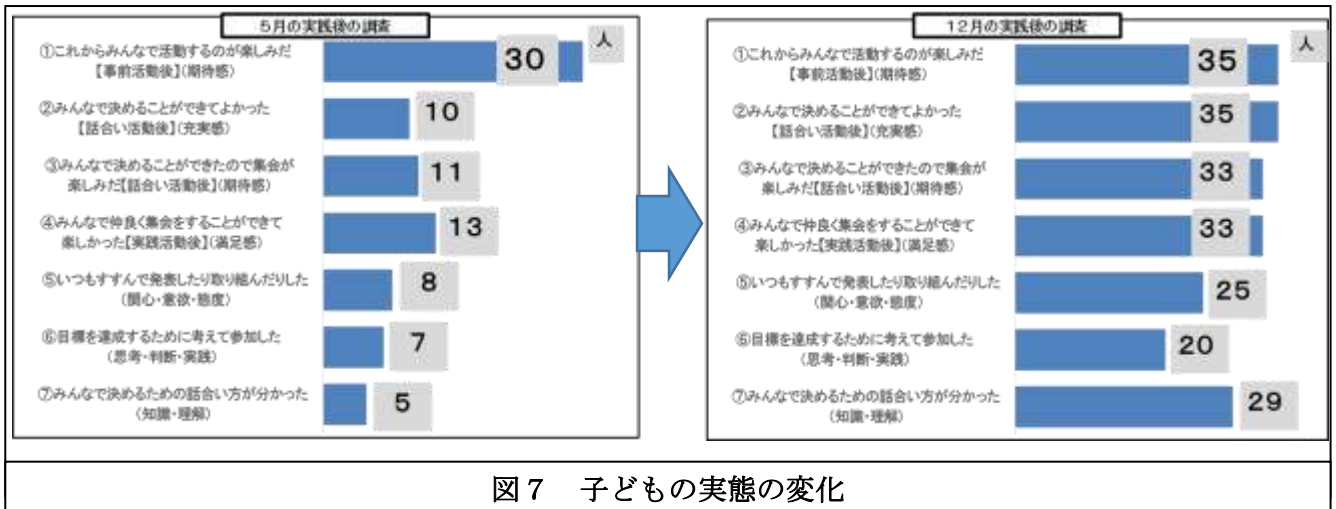
～「勝ち負け」でなく「みんなで何回できるか」に決定！～

9 研究の成果と課題

(1) 全体考察

① アンケートの結果から

実践を終えて、アンケートを実施したところ、5月のアンケートと比べて、図7の①から④のように、事前活動による期待感、話し合い活動による充実感や期待感、実践活動による満足感を味わえるようになってきている。また、⑤から⑦のように、資質や能力も高まってきている。



② 子どもの実践の様子から

- ・いつもめあてを意識した話し合い活動ができるようになってきている。
- ・二段階の話し合い活動の形が身に付いてきて、話し合い活動に活気が出てきた。

(2) 研究の成果

- 事前活動で目標を明確にしたことで、目標に沿った自分の考えをつくり、話し合い活動への期待感をもつことができた。
- 話し合い活動を二段階で構成したことにより、全員が自分の考えを進んで発表したり、互いの考えを集団決定に生かしたりでき、話し合い活動の充実感を味わい、実践活動への期待感をもつことができた。
- 互いの考えが生かされた納得した上での実践活動だったため、意欲的に取り組むことができ、実践活動の満足感を味わうことができた。
- 事前活動や実践活動で、自分たちの姿を写真やビデオで見せる支援を行ったことで、事前活動では、各題材の目標を明確にでき、話し合い活動への意欲につながった。また、実践活動では、実践する楽しさを客観的に感じることで、次の実践への意欲につなげることができた。
- 互いの考えを生かしながら二段階で話し合う活動を積み上げてきたため、友だちの意見を取り入れた集団決定の方法が身に付きつつある。

(3) 今後の課題

- 全員が十分に自分の考えを出しきるための時間確保と話し合う内容の焦点化
- 事前活動や実践活動における計画や準備などの時間確保

<参考文献>

- ・ 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 特別活動編」
- ・ 国立教育政策研究所 「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」